



火 災

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期消火の3原則

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、声が出なければやかんなどを叩き、隣近所に異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけでなく、座布団で火を叩く、濡れた毛布で覆うなど手近なものを活用する。

覚えておこう!「119」のかけ方

119番通報では、次のような内容を落ち着いて正確に答えましょう。

- ①火災が発生していること。
- ②出火場所の住所はどこか。目印になる建物・施設なども。
- ③何が燃えていて、火災の規模はどの程度なのか。
- ④けが人や逃げ遅れた人はいるか。
- ⑤通報者の名前と電話番号。



初期消火のコツ

油なべ	電気製品	衣類
水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。	いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。	着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。衣類やタオルなどをかぶせる。
ストーブ	カーテン・ふすま	
消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。	カーテンやふすまなどに火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。	

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- 濡らしたタオルやハンカチなどで口と鼻を覆う。
- できるだけ姿勢を低く、身をかがめて避難する。



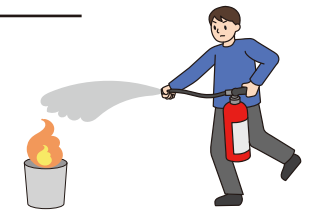
消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎には真正面に向き合わない。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。



火災予防が一番!! - 住宅用火災警報器の設置義務化 -

消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。命を守るために設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝室および「寝室に行く階段」の天井への設置が必要です。
- 台所への設置もおすすめします。

住宅用火災警報器は、
設置して約**10**年が交換の目安です!

